

# 1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	公民	科目	倫理	単位	3 単位
対象コース	カレッジコース	コース	対象クラス	3 年	3 組
使用教科書	高校倫理 新訂版 (実教出版株式会社)				
使用副教材	高校倫理《新訂版》演習ノート (実教出版株式会社)				

# 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

<b>学習目標</b> ：この科目を学習して何を身につけてほしいのか 自分の人生や人間そのものについて、あるいは人間の住む世界について思索を深め、自分なりのしっかりとした生き方を発見し、他人と共によく生きるためには、常識だけでなく、常識を基礎にしながらさらに筋の通ったものの見方、考えを確立する必要がある。そこで、先人の倫理や哲学に関する思索の成果についてその基本的な事柄を学び、自分の課題を解決していく力を身につけて欲しい。
<b>学習内容</b> ：この科目で学習する大まかな内容 倫理の持つ意味を考え、人間の生き方・在り方を共に学び、お互いが共同し協力し理解し合える社会を作るためにどうすればいいのか。その解決の糸口を見出すために、先哲の思想に触れ、現代社会に生きる我々の道標を発見する。
<b>学習方法</b> ：この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか (1) 学校 サブノート（倫理ノート）を使って学習する。大事な箇所を埋めてゆく形式のものだが、板書以外の重要なところを自ら判断し書き込んで欲しい。 (2) 家庭 新聞やニュースなどからの情報に関心を持ち、日々の社会事象を原因と結果という両面から捉えて欲しい。




# 3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)





<b>評価方法</b> ：何を使って評価するのか (1) 定期考査 年4回実施する。 (2) 授業への取り組み 授業中の積極的な発言、および教科書、サブノートへの書き込み。 定期的実施する小テスト。 (3) 長期休暇中の課題 授業内容の復習プリントの提出。
評価における定期考査の割合 70 %








# 4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)


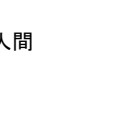




<b>評価の観点</b> ：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか (1) 関心・意欲・態度 人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と自己の確立に努める実践的意欲を持つと共に、これらに関わる諸課題を探究する態度を身につけ、人間としての在り方・生き方について自覚を深めようとしているかどうか。 (2) 思考・判断 生きる主体としての自己の確立のために広く課題を見出し、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究すると共に、良識ある公民としての広い視野に立って主体的かつ公正に判断しているかどうか。 (3) 技能・表現 青年期における自己形成や人間としての在り方・生き方などに関する資料を様々なメディアを通して収集し、その中から有用な情報を主体的に選択することができるかどうか。 (4) 知識・理解 青年期における自己形成や人間としての在り方などに関わる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身につけようとしているかどうか。
--

## 5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	第1編 青年期の課題と人間の自覚 第1章 青年期の課題と自己形成 第1節 青年期の意義	・「第2の誕生」「マージナルマン」等を学習し、青年期特有の不安を、客観的に理解する。	○	○	○	○	
		第2節 青年期の課題 	・青年期の課題を、アイデンティティの確立として捉え、生涯にわたる自己確立の視点を持つ。〈道徳教育を実施〉	○	○	○	○	
		第2章 囚人としての自覚 第1節 ギリシア思想 1 自然哲学とソフィスト 	・古代ギリシアの自然哲学の誕生を通じて、理性的人間観と合理的世界観の成立を理解する。	○	○	○	○	
		2 ソクラテス	・知的探求が善く生きることと一体であるという、ソクラテスの哲学的精神の意義を理解する。	○	○	○	○	
		3 プラトン	・理想主義であるイデア論の特徴を理解し、理性の役割や「哲人政治」の意義について考える。	○	○	○	○	
		4 アリストテレス	・アリストテレスの自然観、および道徳論、国家論の、現実主義的な特徴を理解する。	○	○	○	○	
		5 ヘレニズム時代の思想	・自然との一致を願う個人主義が、世界市民の自覚や自然法の観念を生んだことを理解する。	○	○	○	○	
		第2節 ギリシア思想 1 旧約聖書	・キリスト教の形成を学習し、厳格な道徳意識に立つ一神教の特徴を理解する。	○	○	○	○	
		2 イエス 	・神の愛アガペーと隣人愛の意義を考える。	○	○	○	○	
		3 キリスト教の誕生と展開	・イエス＝キリストの信仰の成立を学習し、パウロやアウグスティヌスの人間観を理解する。	○	○	○	○	
		第3節 イスラーム	・キリスト教とイスラームの思想的な関係を理解し、イスラーム共同体の意義を考える。	○	○	○	○	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
		第4節 仏教 1 仏教以前の思想 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仏教が自己形成の実践であることを理解する。</li> </ul>	○	○	○	○	
		2 ブッダの教え 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブッダの縁起説や無我の法について学習し、西洋思想とは異なる仏教の世界観や人間観の特徴を考える。</li> </ul>	○	○	○	○	
		3 大乘仏教の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仏教の成立とアジアへの伝播を学習し、日本思想の伝統となる大乘仏教の特徴を理解する。</li> </ul>	○	○	○	○	
		第5節 中国思想 1 「道」の自覚 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孔子の説く人倫の道の特徴を理解し、漢字文化圏に共通する家族主義道徳について理解する。</li> </ul>	○	○	○	○	
		2 儒家思想の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 儒教的人間観および世界観の特徴を理解する。</li> </ul>	○	○	○	○	
		3 老荘思想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老荘思想の「道」の捉え方を理解し、禅仏教の文化に通じる文明批判について考える。</li> </ul>	○	○	○	○	
		第6節 芸術と人生 第3章 日本人としての自覚 第1節 古代日本人の思想 1 日本人の生活と自然観 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の風土との中で育まれた日本人の自然観の特徴、日本文化の基層を理解する。</li> </ul>	○	○	○	○	
		2 日本人の宗教観・道徳観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原日本文化の複合的性格や、アニミズムの宗教文化の特徴を理解する。</li> </ul>	○	○	○	○	
		第2節 日本の仏教思想 1 仏教の受容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外来宗教である仏教の移入と展開について学習し、神仏習合のあり方を考える。</li> </ul>	○	○	○	○	
		2 仏教の日本的展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鎌倉新仏教の宗教思想の特徴を理解する。また親鸞や道元に共通する、日本人の人生態度について考える。</li> </ul>	○	○	○	○	
		3 仏教と日本文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仏教的な伝統文化や美意識の形成を理解する。</li> </ul>	○	○	○	○	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
		第3節 近代日本の思想						
		1 儒教の受容と朱子学	・外来宗教である儒教の受容と展開について学習し、伝統文化をなす儒教道徳の特徴を理解する。	○	○	○	○	
		2 日本陽明学 	・朱子学を批判して陽明学を説いた中江藤樹の思想を理解する。	○	○	○	○	
		3 日本的儒学の形成	・日本独自の儒学として古学の思想を学習する。	○	○	○	○	
		第4節 近世日本の思想						
		1 民衆の思想 	・朱子学に基づく江戸思想の多様な展開を理解する。	○	○	○	○	
		2 国学の形成	・古学から国学への展開と、国学による独自文化の特徴を学習し、近代日本の在り方を考える。	○	○	○	○	
		3 幕末の思想 	・洋学の展開と西洋に対する「和魂洋才」の態度について学習する。	○	○	○	○	
		第5節 西洋思想の受容と展開						
		1 啓蒙思想と自由民権思想	・福沢諭吉や中江兆民の思想とその軌跡を学習し、日本近代化の課題について考える。	○	○	○	○	
		2 キリスト教の受容	・内村鑑三の思想形成を通して、日本近代化の課題について考える。	○	○	○	○	
		3 国家主義の台頭と社会主義思想	・国家主義の台頭や初期社会主義の展開を通じて、日本近代化の課題について考える。	○	○	○	○	
		4 近代的自我の確立	・夏目漱石の文学や大正デモクラシーの展開を学習し、日本近代化の課題について考える。	○	○	○	○	
		5 近代日本哲学の成立と超国家主義	・独創的な西田哲学や和辻倫理学の形成と、近代化の挫折としてのファシズムについて考える。	○	○	○	○	
		6 多様な文化と共生の課題	・柳田国男らの自文化理解の在り方を学習し、国際社会における日本文化の可能性を考える。	○	○	○	○	
		第2編 現代と倫理						
		第1章 現代の特質と倫理的課題						
		第1節 科学技術の発達と現代文明の危機	・現代の科学技術文明が危機に直面し、社会が新しい倫理問題に直面していることを理解する。	○	○	○	○	
		第2節 民主主義と国際化の課題	・個人の自由と管理社会との拮抗、国際化と伝統文化の摩擦等、現代特有の課題を理解する。	○	○	○	○	
		第3節 人間としての課題	・個人・私人・公人としての問題領域の差異を理解し、現代における公共性の在り方を考える。	○	○	○	○	
		 						
		 						

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
		第2章現代に生きる人間の倫理						
		第1節人間の尊厳						
		1 ルネサンス 	・ルネサンス人文主義が、近代の人間中心主義ヒューマニズムへと展開したことを理解する。	○	○	○	○	
		2 宗教改革 	・宗教改革が個人の自由を原理とする西欧近代社会形成の重要な契機となったことを理解する。	○	○	○	○	
		3 人間性の探求 	・モラリストの思想と理性主義へのパスカルの批判を考える。	○	○	○	○	
		第2節科学・技術と人間						
		1 近代の自然観	・近代科学および機械論的自然観の特徴を理解する。	○	○	○	○	
		2 新しい知性—経験論と合理論	・近代科学の発展に大きな影響を与えたベーコンとデカルトの思想の特徴を理解する。	○	○	○	○	
		第3節民主社会と自由の実現						
		1 民主社会の形成 	・民主社会を形成する基本原理を、自然法思想や社会契約論の展開から理解する。	○	○	○	○	
		2 人格の尊厳 	・自律を人格の尊厳の根拠とするカントの思想を学習し、近代の人間尊重の精神を理解する。	○	○	○	○	
		3 歴史と自由 	・ヘーゲルの弁証法的な物の見方、および弁証法の論理に基づく「人倫」の捉え方を理解する。	○	○	○	○	
		第4節社会と自己						
		1 個人と社会との調和	・功利主義思想の特徴を理解し、功利主義と民主主義との関係や、個性の自由について考える。	○	○	○	○	
		2 社会の改善と知性の役割	・プラグマティズムの思想の特徴を理解する。	○	○	○	○	
		3 社会の構造と変革 	・社会主義思想およびマルクスの人間観・社会観を学習し、現代の精神的貧困について考える。	○	○	○	○	
		4 主体性の自覚 	・キルケゴールの単独者やニーチェの超人の思想を学習し、主体的自己の確立について考える。また実存主義を学習し、自由な内面的自己を確立する意義と、人類に責任を負う生き方を考える	○	○	○	○	
		第5節人間への新たな問い						
		1 理性の深層への反省 	・理性中心主義を批判するフロイトなどの人間観を学習し、近代合理主義の課題を考える。	○	○	○	○	
		2 言葉への反省 	・言葉が現代思想の主要な主題であることを理解する。	○	○	○	○	
		3 理性の働きへの反省	・フランクフルト学派を学習し、自然と人間を道具化する文明について考える。	○	○	○	○	
		4 異質なものへのまなざし	・西欧優位の文明に対する構造主義の批判を学習し、差異が共生し合う社会の重要性を理解する。	○	○	○	○	
		第6節社会参加と幸福						
		1 生命への畏敬と非暴力の思想 	・シュバイツァーの生命への畏敬、ガンディーの非暴力主義の現代的意義を理解し、ロールズの正義論から「法と正」を考える。	○	○	○	○	
		2 生きがいと社会参加 	・自己実現と幸福について考え、ボランティア活動等を通じた社会的連帯の意義を理解する。	○	○	○	○	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
		第3章現代の諸課題と倫理						
		第1節生命の倫理	生命倫理や環境倫理に関わる課題追求学習に取り組む。	○			○	○
		第2節環境の倫理	個人の自己決定の自由について考える。	○			○	○
		第3節家族・地域社会の課題	家族と地域社会に直面する課題について考える。	○			○	○
		第4節高度情報化社会の課題	情報化社会の現状について考える。	○			○	○
		第5節異文化理解の課題	異文化理解や平和の課題を考える。	○			○	○